作りだそう未来の道具

発明創意工夫コンクール開催

十二月六日に佐世保工業高校で行われた発明創意工夫コンクールの表彰式。本校からは考案の部で十六名、ポスターの部で十二名の生徒が入賞を果たしました。

考案の部 優秀賞 Tマーカー

考案の部で優秀賞を獲得した、A3の津田忠豊君の「Tマーカー」。津田君は授賞式の当日、会場の佐世保工業高校で作品のプレゼンテーションを行いました。

津田くんの考えたTマーカーは、一本のペンで細線・太線・二重線の三種類の線が引けるというもの。授業でノートにラインを引くとき、一つペンを変えながら三種類を使い分けるのは少し面倒。そこで、一本で三種類の線が引けるペンは作れないかとTマーカーを考えました。

当日はプレゼンテーションのためにTマーカーの模型を準備して臨んだ津田君。「優秀賞をもらえて、びっくりしたけれど嬉しかった。今回の体験はこれからの生活にも役に立つと思います。来年も後輩たちに頑張ってもらいたいです」と受賞した感想を話してくれました。

▶津田君&Tマーカー

◀Tマーカー特大模型。好評だったそうです

▲電気科の発表の様子

〈生徒研究成果発表〉電気科 電球操作

今回は電気科の生徒が課題研究「シーケンス制御による電球操作」の発表を行いました。使用した電球は八十一個。そのため、配線作業が一番大変だったそうです。押すボタンの順番によって数字や文章を表示でき、発表では電光板を使ったフラッシュ暗算ゲームで観客を楽しませました。

今年のコンクールではたくさんの生徒が入賞しました。来年はさらに良いアイデアがでるように頑張りたいですね。

▲9×9マスで表現します。

進路 インターンシップ 働く現場で聞いた!!

二年生が十二月九日から二週に渡って、三日間ほど参加したインターンシップ。新聞部の二年生がインターンシップ先で仕事について、いろいろなことを聞きました。

◆OKホームセンター長与店

Qあなたにとって仕事とは。

―楽しくもあり、苦しくもあり。趣味であり、生活をかけたものでもあります。

Q高校生に求める能力は。

―一番は根性と体力。一日に一回は怒られます。そんなとき、「悔しいな」か「今度は失敗しないように」と思える人がいいですね。

Q職場の人との人間関係を上手くやっていくポイントはありますか。

―一番は自分から話しかけること。話かけてもらうのを待っててもだめ。自分から質問をする。どんどん質問すると印象がいいし、そこから趣味の話とか世間話もしてくれるようになります。それに人生の先輩には聞くことが多い。逆に、若い人から教えてもらうこともある。上の人も、もしかしたら下の人と話したいことがあるかも。そうして、上の人から頼られるようになったら儲けもんですよ。

◆ダイハツ長崎販売 小ケ倉店

Qあなたがここで働く理由は？

「営業が楽しいから」「地元で働きたかったから」「自動車整備士になりたかったから」「知人の紹介で」

Q企業の面接試験で大事なことは何ですか。

―笑顔。

Q営業の仕事について。

―営業はお客様との駆け引き。車の値段交渉では、相手は値段を下げたいと思うけれど、こちらは簡単にそうはできない。まずは、冗談でも何でも話してお客様に笑ってもらうことです。

お話で出てきた「根性」と「笑顔」。職場で求められているのは長く働いてくれる若い力と、一緒に働きたいと思えるような人材なのかもしれません。

お昼だ！ こふた生!!!

～ひるやすみの悲劇～

め、明太子ラスク…

シリーズ 溶接1!2!3!

一年の始めに…

溶接を始めてから早くも八ヶ月。ちんぷんかんぷんだった先生の話も随分と分かってきました。溶接をする中で他の科の人と関わり、未知の考え方や物の見方を学びました。旋盤、鋳造、原動機、制御など学校の中には自分の知らないものがまだまだたくさんありました。溶接に挑戦していなければ、他の科がしている事など知る機会も無かったと思います。学校全体としてもっと横の繋がりがあればいいのに…。今年は九州大会目指して腕を磨き、また楽しみつつ皆様により分かりやすく伝えていけたらと思います。そして、一月の元旦にインドの資格も無事取得できました。

▶二つ目の資格☆（甲斐田）

石造りの文化にふれる 海外研修①ドイツ

▼ローテンブルク街並みとピース！

今回も八月二十六日～三十一日にかけての六日間、ドイツ海外研修が実施されました。七回目となる今回。その中にはいろんな予定変更や予想外のハプニングもたくさんあったそうです。異国の地ドイツ。そこで学んだものは：研修に行った生徒六名に今回の研修について聞いてみました。

Q1一番美味しかったものは。

―ソーセージ。想像以上に種類があって、おいしかった。

Q2強く感じた日本との違いは。

―ホテルを出る時にチップをおいていくこと。食事の味付け。

Q3ガイドブックとは違うと思ったところは。

―ガイドブックにもない昔話が数多く存在する。町並みが綺麗。落書きが多い。

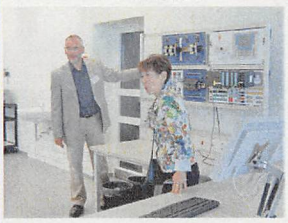
Q4一番印象に残ったところは。

―教会などの建物。スケールが大きく、ステンドグラスなどが細かく多かった。（この回答が一番多かったです）

Q5覚えたドイツ語は。

―グーテンターク（こんにちは）

▼ドイツの学校を見学



Q6買ってきたお土産は。

―メルシーのチョコ、ハリボーのグミ。

「異なる文化を柔軟に受け入れ、さらに多くのことに挑戦したい」と今回の研修を経て今後に生かしたいと述べる参加者。引率をされた北川先生と長池副校長先生にも伺うと「当たり前が当たり前じゃないということを生徒と実感することができた。また、日本の良さも再確認する事ができたのでよかった」（北川先生）、また長池副校長先生は「今回のドイツ研修を『唯一無二』と四字熟語で表し、締めくくってくださいました。

研修に参加した皆さん、ご協力ありがとうございました。

突撃！あなたのお昼ごはん（番外編）

見つめ続けて三十二年 岩屋食堂

▲長工の胃袋を支えるおしどり夫婦

今回は「突撃！あなたのお昼ごはん」の番外編。お昼はお弁当ではなく、長工のすぐ近くのはまたに食堂や岩屋食堂から出前を取っている先生も多いはず：ということで、早速新聞部は岩屋食堂へ。食堂に入るとまるで祖父母の家に遊びに来たような、親しみやすさのある店の雰囲気。現在、食堂を経営されているのは岩崎正人さん・八重子さん夫妻。お二人が食堂で商売を始めたのが昭和五十七年。当時はお店が埋まってしまうほど部活帰りの長工生が訪れていたそうです。古くから長工生と長工の先生と関わってきた岩崎さん夫妻にお話を伺いました。

Q1今と昔で長工生に違いはありますか。

―昔の男子は男臭くてゴツかったが、今の男の子は華奢で柔軟剤の匂いがする。

Q2一番人気のメニュー。

―人気はやっぱり『ちゃんぽん』。

Q3料理を作る時のこだわりは。

―気持ちを込めた料理をできるだけ温かい状態で届けること。

Q4長工の先生に人気のメニューは。

―ちゃんぽん、皿うどん、生姜焼き定食。

新聞部員も思い思いのメニューを選び、おいしく頂きました。ご協力ありがとうございました。

次号は「はまたに食堂」です。

先生方にも人気の…

ちゃんぽん

後編 編集記

年が明けたと言うのに、未だ自重することを知らないシベリア気団の猛攻。その寒さに指を震わせた結果が今号です。ええい、春はまだかやって来んのか！多分夏になったら反対の事言ってると思うけど。